

2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月7日

上場会社名 株式会社 ガーラ

上場取引所 東

コード番号 4777 URL <http://www.gala.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役グループCEO (氏名) 菊川 暁

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 岡本 到

TEL 03-5778-0321

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	144	21.3	93		93		87	
2020年3月期第1四半期	118	52.0	68		77		78	

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 85百万円 (%) 2020年3月期第1四半期 73百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	4.85	
2020年3月期第1四半期	4.74	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	1,012	341	23.9	12.71
2020年3月期	719	114	4.0	1.63

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 242百万円 2020年3月期 28百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、「添付資料」P.3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	19,060,800 株	2020年3月期	17,658,900 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	株	2020年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	17,982,415 株	2020年3月期1Q	16,547,356 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料については、決算発表後に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	9
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という。）の当第1四半期連結累計期間における経営成績の概況は、連結売上高144,123千円（前年同四半期比21.3%増）となり、増収となりました。

これは、主にオンラインゲーム事業の売上高が前年同四半期と比較して増加したことによります。

また、オンラインゲーム事業の売上高の増加に伴う支払ロイヤリティの増加により売上原価が増加しておりません。

販売費及び一般管理費につきましては、前年同四半期と比較してマーケティング活動費用が減少したものの、ソフトウェア償却費が増加したことから、増加となりました。

これらの結果、営業損失93,468千円（前年同四半期営業損失68,246千円）、経常損失93,730千円（前年同四半期経常損失77,993千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失87,222千円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失78,465千円）となりました。

セグメントごとの経営成績の概況は、次のとおりであります。

① 日本

日本セグメントでは、2019年11月に「FOX-Flame Of Xenocide-（フォックス）」のサービス提供を終了したことによる減少があったものの、クラウド関連事業の売上計上により、前年同期と比較し売上高（内部取引を含む）が増加いたしました。なお、クラウド関連事業は、韓国のMegazone社グループのクラウド事業の日本展開に関して、日本国内の営業サポート業務、運営サポート業務、採用及び人事管理サポート業務、イベントサポート業務を行っております。

費用面では、「FOX-Flame Of Xenocide-（フォックス）」に係る運営費用の減少があった一方で、グループ会社に対する債権に係る貸倒引当金繰入額の増加により販売費及び一般管理費が増加いたしました。

これらの結果、日本セグメントにおける売上高は12,543千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で291千円（2.4%）の微増となり、セグメント損失が59,767千円（前年同四半期は64,734千円の損失）となりました。

② 韓国

韓国セグメントでは、スマートフォンアプリ事業において、連結子会社Gala Lab Corp.が開発し、2017年1月の韓国語版のサービス提供開始以来、多言語展開による配信を進めているスマートフォンゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」について、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、海外における感染症拡大防止のためのロックダウンや外出自粛に伴う、いわゆる「巣ごもり消費」として2020年4月、5月において対前月比の売上高が増加傾向で推移しております。また、連結子会社Gala Mix Inc.が開発した歩数計アプリ

「Winwalk（ウィンウォーク）」について、グローバルなネットワークを活かした多言語展開による配信を進めており、売上高が順調に推移しております。さらに、連結子会社Gala Lab Corp.が開発し2020年3月に東南アジアにおいて英語版の配信を開始したスマートフォンアプリ「Rappelz M（ラペルズモバイル）」についても、足元では堅調に推移しており、現在、欧米を中心とするグローバル地域での配信について2021年3月期のリリースに向けて準備を進めております。これらのユーザーへのアイテム販売増加により前期と比較し売上高（内部取引を含む）が増加いたしました。

また、オンラインゲーム事業では、連結子会社Gala Lab Corp.の主力ゲーム「Rappelz Online（ラペルズオンライン）」及び「Flyff Online（フリフオンライン）」においても、いわゆる「巣ごもり消費」として2020年3月頃からヨーロッパ、アメリカ、台湾等の地域において対前月比の売上高が増加傾向となっており、売上高（内部取引を含む）が増加いたしました。

なお、連結子会社Gala Lab Corp.は、「Flyff Online（フリフオンライン）」及び「Rappelz Online（ラペルズオンライン）」について、2020年3月に、WAY2BIT Co., Ltdが提供するブロックチェーンプラットフォーム「BORA ISLAND」でのサービス提供についてライセンス契約を締結いたしました。現在、「BORA ISLAND」内で利用可能な仮想通貨であるブロックチェーンコインBORAでのプレイが可能となるよう、「Flyff Online（フリフオンライン）」及び「Rappelz Online（ラペルズオンライン）」の「BORA ISLAND」内でのサービス提供の準備を進めております。

費用面では、「Flyff Legacy（フリフレガシー）」に係るマーケティング活動費用が、前年同四半期と比較して減少している一方で、ソフトウェア償却費が増加したことにより販売費及び一般管理費が増加いたしました。

これらの結果、韓国セグメントの売上高は141,968千円（内部取引を含む）と前年同四半期比で23,274千円（19.6%）の増収となり、セグメント損失が33,974千円（前年同四半期は3,614千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて227,189千円増加し、341,193千円となりました。

主な増減は、資産では、現金及び預金が305,577千円増加した一方で、ソフトウェアが23,041千円減少いたしました。負債では、前受収益が25,951千円、長期前受収益が14,902千円増加いたしました。純資産では、資本金が150,003千円、資本剰余金が150,003千円増加した一方で、利益剰余金が87,222千円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が極めて困難であります。さらに、新規事業であるクラウド関連事業及びVR事業については、当該事業を取り巻く環境の変化等により損益が大きく変動する可能性が高く、適正な業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただいております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	96,110	401,687
売掛金	49,559	56,666
未収入金	48,950	52,470
前払費用	4,517	4,076
その他	6,961	5,717
貸倒引当金	△316	△210
流動資産合計	205,782	520,407
固定資産		
有形固定資産	2,487	2,554
無形固定資産		
ソフトウェア	338,396	315,355
その他	1,091	821
無形固定資産合計	339,488	316,176
投資その他の資産		
投資有価証券	525	537
敷金及び保証金	14,252	14,353
長期前払費用	157,185	158,027
投資その他の資産合計	171,962	172,918
固定資産合計	513,938	491,649
資産合計	719,720	1,012,056
負債の部		
流動負債		
買掛金	308	304
未払金	45,013	56,726
未払費用	53,066	48,324
前受金	50,523	60,873
前受収益	2,511	28,462
未払法人税等	1,500	375
その他	6,141	5,714
流動負債合計	159,065	200,780
固定負債		
長期前受収益	258,343	273,246
繰延税金負債	83	87
退職給付に係る負債	188,223	196,748
固定負債合計	446,651	470,081
負債合計	605,716	670,862

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,381,082	3,531,085
資本剰余金	2,026,687	2,176,690
利益剰余金	△4,894,131	△4,981,354
株主資本合計	513,637	726,421
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	190	198
為替換算調整勘定	△484,979	△484,423
その他の包括利益累計額合計	△484,789	△484,225
新株予約権	83,616	96,725
非支配株主持分	1,539	2,271
純資産合計	114,004	341,193
負債純資産合計	719,720	1,012,056

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	118,790	144,123
売上原価	38,796	44,610
売上総利益	79,994	99,512
販売費及び一般管理費	148,240	192,981
営業損失(△)	△68,246	△93,468
営業外収益		
受取利息	153	83
その他	6	61
営業外収益合計	160	144
営業外費用		
為替差損	9,857	406
その他	49	—
営業外費用合計	9,907	406
経常損失(△)	△77,993	△93,730
特別利益		
新株予約権戻入益	—	8,506
特別利益合計	—	8,506
税金等調整前四半期純損失(△)	△77,993	△85,223
法人税、住民税及び事業税	952	1,300
法人税等合計	952	1,300
四半期純損失(△)	△78,946	△86,524
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△480	698
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△78,465	△87,222

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△78,946	△86,524
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	8
為替換算調整勘定	5,700	588
その他の包括利益合計	5,693	596
四半期包括利益	△73,252	△85,927
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△72,719	△86,658
非支配株主に係る四半期包括利益	△532	731

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社及び連結子会社(以下、「当社グループ」という。)は、前連結会計年度において営業損失273,319千円及び親会社株主に帰属する当期純損失432,420千円を計上しております。また、当第1四半期連結累計期間において売上高が前年同四半期に比べて21.3%増加し、144,123千円となったものの、営業損失93,468千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失87,222千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早期に解消又は改善すべく、以下の対応策を実施してまいります。

まず、スマートフォンアプリ事業において自社グループ開発のゲームアプリ「Flyff Legacy(フリフレガシ一)」及び2020年3月に東南アジアでのサービスを開始した「Rappelz M(ラペルズモバイル)」のサービスを提供しております。「Rappelz M(ラペルズモバイル)」については、現在、グローバル地域でのサービス開始予定を2021年3月期としてリリース準備を進めております。これらのスマートフォンアプリ事業の売上高拡大を図るため、良質なゲームタイトルに経営資源を集中することにより、スマートフォンアプリ事業の収益化に向けて注力してまいります。

さらに、ゲーム事業以外の新たな収益基盤を構築するため、クラウド関連事業及びVR事業を新規事業として進めてまいります。

資金繰りにつきましては、当第1四半期連結累計期間に第三者割当による株式及び新株予約権を発行し、当面の事業資金として310,100千円を調達いたしました。今後、当該第三者割当による第6回新株予約権の行使により1,000,000千円を調達する予定であります。

以上の施策を実施するとともに、今後も引き続き有効と考えられる施策については、積極的に実施してまいります。

しかしながら、これらの改善策を実施してもなお、今後の売上高及び利益の回復は、スマートフォン向けアプリの開発の進捗状況、市場投入の時期、市場での競争激化による環境の変化等に左右されること、また、新株予約権による調達について行使が確約されているものではないことから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当社グループの四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年6月10日付で、Megazone Cloud Corporationから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金が150,003千円、資本準備金が150,003千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が3,531,085千円、資本準備金が1,670,654千円となっております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	8,493	110,297	118,790	—	118,790
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3,759	8,396	12,155	△12,155	—
計	12,252	118,693	130,946	△12,155	118,790
セグメント損失(△)	△64,734	△3,614	△68,349	103	△68,246

(注) 1. セグメント損失の調整額103千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	韓国	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	6,381	137,742	144,123	—	144,123
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	6,162	4,225	10,388	△10,388	—
計	12,543	141,968	154,512	△10,388	144,123
セグメント損失(△)	△59,767	△33,974	△93,741	273	△93,468

(注) 1. セグメント損失の調整額273千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社及び連結子会社(以下、「当社グループ」という。)は、前連結会計年度において営業損失273,319千円及び親会社株主に帰属する当期純損失432,420千円を計上しております。また、当第1四半期連結累計期間において売上高が前年同四半期に比べて21.3%増加し、144,123千円となったものの、営業損失93,468千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失87,222千円を計上しております。現在の低迷した売上状況が継続すれば営業損失が継続し資金繰りに懸念が生じる可能性があります。当該状況等により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を早期に解消又は改善すべく対応策に取り組んでおりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、継続企業の前提に関する事項及びその対応策に関しましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。